



よふぼくよせらる もよふばかりと

たすけて頂いた喜びは、自ら外に向つて、
人だすけの行為となり、ここに、人は、親
神の望まれる陽気ぐらしへの普請の用材と
なる。これをよふぼくと仰せられる。

（天理教教典第九章「よふぼくより」）

よふぼくに性別や身分の差はなく、心一つ
によってひとしく親神様のよふぼくであるこ
とに変わりはありません。親里で別席順序や
教えの実践を重ね、心のほこりを払い、さづ
けの理が授けられることで、心は生まれかわ
り、こうのうを見せて頂けるようになります。
よふぼくの使命はたすけ一条にあり、にをい
がけやおさづけを通して、人々の心を根本か
らたすけることにあります。

この道は心だすけの道であり、心がたすか
れば身上や事情も自然に解決されます。教祖
のひながたにならない、真心を尽くして道を歩
む者は、年限の浅深に関わらず、親神様のあ
ざやかなご守護を戴くことができます。さら
に、その丹精の実として教会が生まれ、人々
が心一つに結び、陽気ぐらしの雛型を社会
に示していくことになるのです。

一寸はなし神の心のせきこみハ

よふぼくよせるもよふばかりを（第三号128）
いよいよ教祖百四十年祭を迎えました。
お互い親神様のよふぼくと心得て、たすけ
一条の御用に努めさせていただきます。

本島大教会布教部（み）



天理教本島大教会

教祖140年祭